

MASUO IKEDA

池田満寿夫展

2001 MASUO IKEDA COLLECTION



「満寿のよこ」(一九八〇)

2001.9.21_金 - 10.21_日

高松市美術館

Takamatsu City Museum of Art
〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 Tel.087-823-1711

開館時間=火~金曜日(9:30~19:00) 土、日曜日、祝日(9:30~17:00)
 入室はいずれも閉館30分前まで 初日は午前10時開展式
 休館日=月曜日(但し、9月24日【月】及び10月8日【月】は開館 9月25日【火】及び10月9日【火】は休館)
 入場料=一般 900円(720円) 高大生 500円(400円) 小中生 300円(240円)
 ※ ()内は前売り及び団体20名様以上の料金
 ※ 65歳以上の高齢者(長寿手帳等が必要)・身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者
 保健福祉手帳所持者は入場無料
 ※ 第2・第4土曜日は小・中・高生入場無料

主 催 = 高松市美術館 / 産経新聞社 / OHK岡山放送



「太陽の下の休息」(1955) 池田満寿夫美術館蔵



「化粧する女」(1964)



「夏」(1964)

MASUO

1934年に旧満州国(現・中国東北部)に生まれた池田満寿夫は、少年期を長野で過ごし、画家を志して上京後、画家・瑛九の勧めで色彩銅版画を始めます。1960年に東京国際版画ビエンナーレ展で文部大臣賞を受賞、シンデレラボーイとして一躍脚光を浴び、1965年にはニューヨーク近代美術館で日本人作家として初の個展を開き、翌年にはヴェネツィア・ビエンナーレ展で国際版画大賞に輝くなど、国際的に最も有名な日本人作家の一人となりました。

その一方で、文学にも傾倒し、1977年には小説『エーゲ海に捧ぐ』によって芥川賞を受賞、映画監督としてデビューを果たした後もマルチ・アーティストとして多様な挑戦を続け、特に晩年は山梨や熱海に窯を開き、膨大な陶芸作品を残しました。

1997年3月に63歳で急逝、その早すぎる死は美術界に衝撃を与えました。

本展では、こうした膨大な仕事を残した池田満寿夫の芸術を版画のみならず、初期から晩年までの油彩、水彩、彫刻、陶芸、書、コラージュなどの約220点を網羅することによって、その才気に溢れた芸術世界を紹介します。

IKEDA



「七つの大罪『奇畫の罪』」(1972)



「魚大皿」(1985)

ギャラリートーク

当館学芸員によるギャラリートーク

9月22日(土)／10月6日(土)
午後2時より2階展示室にて

美術館ボランティア「civi(シヴィ)」 とともに鑑賞をしませんか?

毎日曜日(9月23日、9月30日、10月7日、10月14日、10月21日)
祝日(9月24日、10月8日)
午前11時～午後2時～ 1日2回 2階展示室にて

次回催し物のお知らせ

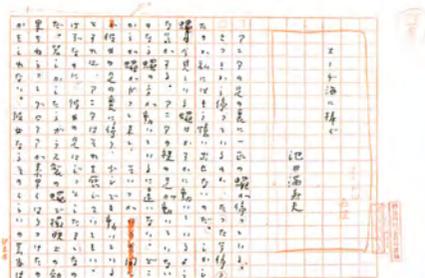
市制施行111周年記念 デュフィ展—ボンビドーセンター所蔵

11月3日(土)～12月9日(日)



交通のご案内

JR 四国—JR高松駅下車、南へ徒歩15分
琴平電鉄—瓦町駅・片原町駅下車、徒歩10分
バス路線—船屋町バス停下車、徒歩3分
駐車場—美術館地下に公営駐車場
(有料、乗用車144台収容)



「『エーゲ海に捧ぐ』自筆原稿」(1976) 日本近代文学館蔵